

# 魚病診断結果

田中真二・中西尚文・羽生和弘・栗山 功・西川久代

## 目的

県内の養殖魚等の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い、魚病被害の軽減をはかる。

## 方法

平成18年4月～平成19年3月に水産研究部，同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった病魚について魚病診断を行った。

## 結果および考察

総診断件数は300件（海産魚介類296件，淡水魚類4件）であった。

魚種，魚病別の診断結果を表1～5に示す。マダイでは，種苗導入期である5～6月の水温が例年より低かったため

か，滑走細菌症が多発した。秋季には，通常冬季に発生するリンパ性白血病が0歳魚でみられた。前年度に当県では初めて確認された粘液胞子虫性やせ病が，今年度は夏季から秋季を中心に0歳魚で多発した。また，1歳魚でも秋季の出荷時に，数%から多い場合は1割強のやせ魚が認められる事例が多数報告された。これらの1歳魚の診断例では，いずれもやせ病の原因虫である*Enteromyxum leei*の寄生は認められず，一部の魚はクピナガ鉤頭虫症と診断されたが，大部分は原因不明であった。例年より水温が高めに推移した冬季には，ピバギナ症が多発したほか，通常秋季に発生する心臓ヘネガヤ症も認められた。

その他の魚種では，クエの1歳魚（体重200～300g）で秋季にウイルス性神経壊死症がみられ，死亡率は20～100%に及んだ。また，クロマグロ0歳魚で1月に血管内吸虫

表1．マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
イトウウイルス病	0	1		1	5	13	4	1						25
	1					3	1							4
リンパ性白血病	0					3	3	2		1				9
ヒレオシロシ病	0		1					1						7
滑走細菌症	0	3	5	1				1	1	1	1			13
	1	1									1			2
ヒレオシロシ病	0	1	1	1			1		1		2			7
イトウウイルス病	0					1		1	3					5
	1				1		2	3						6
トリコチナ症	0		1											1
スカーカ症	0		1							2				3
	1	1												1
心臓ヘネガヤ症	0				6	7	2	1	1	2				19
粘液胞子虫性やせ病	0		1	1	4	1	4	3	1	1				16
ヘネガヤ症	0									1		1		2
ピバギナ症	0		1	7	3	4	1	3	3	13	3	3		41
	1	1												1
アサギイシ病	0			1	4					1				6
血管内吸虫症	0							1		3		1		5
クピナガ鉤頭虫症	0							1	2	1		1		5
	1									1				1
	2									1				1
皮膚加ガス症	0									1				1
体表ルビラ	0									1	1			2
	2	1												1
体表白濁症	1									1				1
輸送障害	0		1											1
上湾症	0							1						1
	1							1						1
やせ(原因不明)	1					1	3	2						6
不明	0								2		3	2	7	
小計		3	8	12	20	19	35	24	28	9	28	8	7	201

表2．ブリの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
イトウウイルス病	0									1				1
イサ球菌症	0					1	1	3	1	1				7
類結節症	0					1								1
ノカシア症	1									4				1
細菌性溶血性黄疸	1						3	1	1			1		6
ペコ病	0				1									1
ヘネガヤ症	0											1		1
ヘネガヤ症	0								1			1		2
血管内吸虫症	0											1	1	1
ヒラ着生	0	1												1
他，体表ル(原因不明)	0									1				1
不明	0									1				1
小計		0	1	0	3	5	4	4	3	0	2	2	0	24

表3．ヒラメの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
イトウウイルス病	0											1		1
イサ球菌症	1		1											1
イトウウイルス病	0						2	3						5
クピナガ鉤頭虫症	0											1		1
スカーカ症	0			1										1
不明	0	1												1
小計		0	1	2	0	2	3	0	0	2	0	0	0	10

表4. トラフグの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
ピブリア病	0			1											1
滑走細菌症	0	1	1												2
スチカ症	0	1	1												2
粘液胞子虫性やせ病	1					1									1
行跡ツリム症	1	3	1												4
背部ル	1					1									1
やせ(原因不明)	0					1									1
不明	0			1											1
小計		6	2	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	15

症による大量死の事例がみられた。

感受性ディスク法による主要病原菌の薬剤感受性試験の結果を表6に示す。プリのレンサ球菌症原因菌およびマダイのエドワジエラ症原因菌は、検査したいずれの薬剤にも概ね高い感受性を示した。一方、ヒラメのエドワジエラ症原因菌は、検査した3株のうち2株が塩酸オキシテトラサイクリン耐性であった。

表6. 主要病原菌の薬剤感受性

レンサ球菌症 原因菌(プリ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
エリスロマイシン				7	7
塩酸サリチン	1			6	7
フロルフェニコール			1	6	7
チアンフェニコール			3	3	6
アンピシリン	1		1	5	7

エドワジエラ症 原因菌(マダイ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸サリチン		1		7	8
フロルフェニコール				8	8
チアンフェニコール				6	6
アンピシリン	1	1		5	7

エドワジエラ症 原因菌(ヒラメ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸サリチン	2		1		3
フロルフェニコール				1	1
アンピシリン	1				1
ニコスリン酸ナトリウム			1		1

表5. その他の魚種の診断結果

(魚種) 病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
<b>(マハタ)</b>															
ウイルス性神経壊死症	0					1		1	1						3
材料行ア症	0								1						1
<b>(クエ)</b>															
ウイルス性神経壊死症	1								1	3					4
直腸閉塞	2				1										1
<b>(スズキ)</b>															
滑走細菌症	1							1							1
未同定細菌病	0						1								1
開心腔外ア症	0						1								1
<b>(イサキ)</b>															
シュドモス症	1													1	1
<b>(マアジ)</b>															
酸欠	1					1									1
<b>(シマアジ)</b>															
レンサ球菌症	1										1				1
	2								2	1	1				4
シュドモス症	2	1													1
不明	0									1					1
<b>(カワハギ)</b>															
レンサ球菌症( )	0							1							1
ピブリア病	1								1						1
腸閉塞	1								1						1
不明	0						1				1	1	2	5	
<b>(ウマツラハギ)</b>															
ピブリア病	1					1									1
ヘルペス症	0								1						1
<b>(カンパチ)</b>															
ウイルス病	0							1							1
輸送障害	0							1							1
<b>(クロマダロ)</b>															
血管内吸血症	0											1			1
<b>(マサバ)</b>															
シュドモス症	1	1													1
レンサ球菌症	2					1									1
<b>(カサゴ)</b>															
初口ニス症	0	1													1
<b>(マアナゴ)</b>															
ピブリア病	0											1			1
IPモス症	0											1			1
EDモス症	0										1				1
EDモス症	0							1							1
EDモス症	0								1			1			2
不明	0											1	1		2
<b>(ブテウゴンカデニ)</b>															
<b>1) (テジクイ科)</b>															
ウイルス病	0												1		1
<b>(アサリ)</b>															
輸送障害	0												1		1
<b>(マゴイ)</b>															
ウイルス病						1									1
<b>(ニシキゴイ)</b>															
ウイルス病						1									1
<b>(アユ)</b>															
真菌性肉芽腫症	0								1						1
不明	0	1													1
小計		4	2	6	4	3	7	7	4	7	3	0	3	50	